

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101414		
法人名	有限会社 悠らいふ		
事業所名	悠ライフさくら山鼻 (3階ユニット)		
所在地	札幌市中央区南16条西9丁目1番33号		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の介護理念「六つの誓い」を基盤とした、入居者様主体のケアを中心に取り組んでいます。  
 生  
 活の中で大切な食事にホーム全体で力を入れています。  
 日々進行する認知症の症状と付き合いながら、「今できること」を大切に、希望メニューや、漬物、お餅、果物、季節行事食、外食等々入居者様が昔からなじみがある食も取り入れながら、皆様と一緒に作ることを楽しみとし、手作りの大切さを重点にしています。  
 健康管理の面では、毎日の心身の状態を常に細かく見させて頂きながら、小さな特変も主治医と看護師との24時間体制にて相談と対応ができるようになっています。  
 事前の気づきができるケアを職員全員が意識して取り組んでいます。  
 家族会の協力体制を基盤とし、食事介助や漬物作りの指導、声掛けによるお手伝い等、ご家族様の協力も多いことがホームの特徴です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajikokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JijiyosyoCd=0170101414-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajikokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JijiyosyoCd=0170101414-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年1月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、1日・月曜日・全体会議の際に理念並びに行動規範を唱和し、それ以外の日は朝の申し送り時に事業所理念「6つの誓い」を唱和し共有を図り、実践に繋げるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩やゴミ投げの挨拶や、町内会行事の参加など地域交流を意識して少しずつ取り組んでいます。地域運営推進会議には町内会長、民生委員、包括、ご家族様の参加にてホームの状況報告やアドバイスを頂きながら、改善に活かしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方からのボランティアの受入れや、入居者様との散歩や買い物、町内会行事等による外出支援により、地域との交流を図っています。今年度のキャラバンメイトの開催実施は未達成の状況です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、地域運営推進会議を行い、ホームの状況報告の中で、会議での意見を参考にサービスの向上に努め、議事録にて会議の内容を報告しています。町内会長、民生委員、地域包括、御家族様、地域包括、入居者様の参加型にて行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市主催連絡会の参加、包括との連絡、実地指導、毎月の入居状況報告、入居者様の病院受診に至る事故や服薬事故発生時の札幌市の報告書の提出の実施。生活保護の方は定期的な訪問を受け、受診時に保護課担当者との連絡を取って対応しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づきながら、新人職員の育成を意味付や指導をしながら、ケアを行っています。正しい理解、意味付の指導を今後も行います。玄関の鍵を開錠する取り決めを実施、防犯の為夜間から早朝時は施錠しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を実施し、各職員へ周知しています。また、日頃から利用者の心身の状況やケースなどの情報から虐待がないか確認をしています。		

悠ライフさくら山鼻(3階ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3階の入居者様ほ利用している方がおりませんが、今後制度を利用する可能性の方も出てくると予測して、全体会議の勉強会の中で権利擁護や成年後見制度を定期的に行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約、退居解約時には、規約に基づき、会社の運営方針の説明を行い、契約を交わしています。ホームでの家族会発足に伴い、説明の上家族会に入会して頂き、定期的な家族会総会の実施や忘年会等、ご家族様と職員との交流を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けており、ご家族同士で話し合いを持つ機会や運営に関しての意見を伺い、運営面に反映をさせている。また、ご家族様と職員の交流の場や家族会としての協力の場があり、開かれた場作りを行っています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームの運営に関して各職員が担当を持ち、運営に関しての提案や推進を行っています。日頃より、全体会議において意見などを出して議論する場を設けて取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を活用し、職員個々のレベルに合わせた待遇や目標に合わせた評価をしている。労働環境、職場改善に向けた職員の意見の聞き取り対応を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成プログラムなどを活用し一人ひとりのスキル状況を面談を通して把握している。また、社内OJT、内外の研修にも参加できる体制作りをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区のグループホーム管理者連絡会に参加し、他グループホームと合同勉強会を実施しネットワーク作りを行っています。		

悠ライフさくら山鼻(3階ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者や家族様と面談を実施し、生活情報、疾病、要望を伺い、職員間でカンファレンスを行い、介護計画に反映させサービスの提供を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント用紙(センター方式)の記入にご協力いただき、サービスの向上に努めており、随時介護計画の追加・変更を行い、来訪時、電話、手紙にて近況を伝え関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に入居者様の状態をご家族様と一緒に相談し合い、必要に応じて支援内容を提案しながら、福祉用具の使用などを見極めながら支援内容に沿ったサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をする立場に立ち、日常を共に過ごし、外出や会話、家事などの役割を通じて共になじみの関係を構築を意識して対応しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況を都度報告し、ご家族様の協力を得ながら相談し合い、職員の支援とご家族様の支援を共有しながら協力体制を構築しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの情報収集を元にししながら、ご家族様から馴染みの場所や、物などの情報を実際にご本人様に伺い支援させて頂き、家族様や親族、友人の定期・不定期な面会を通して継続した関係の構築に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢、住居、生活歴などが違う入居者方々の団体生活に対して、寂しくなく孤立せず入居者様同士が一緒にくつろげる環境づくりの支援や、配慮をさせて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者様のご家族様との年賀状のやりとりや、電話連絡など、いつでも受け入れられる状態を持ちながら関係性を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身の意思を伝えることが可能な方は、日常の会話の中から思いを聞きだし、伝達能力が難しい方は、動作や表情などを元に把握しています。ご家族様からも個々の思いを汲み取れるように対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時には、ご家族様にセンター方式のアセスメント記入を依頼し、生活歴などを事前に把握しながら、介護計画支援に繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中から夜間帯にかけての申し送りをを行い、心身の状態を職員全員で把握しながら、より良い気づきのあるケアに活かしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でモニタリング作成をし、評価を行い、現状の課題や改善などを話し合うケアカンファレンスの実施を行った中で意見を収集して、介護計画を作成しニーズに合ったケアを実施しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に入居者様の様子や気づきを記入し、情報を個別に把握しながら共有をし、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なじみの場所や美容室、音楽療法依頼、訪問理美容、専門医の受診等、都度ニーズに対して柔軟に対応を行っています。入退院などの状況変化のお見舞い、受け入れカンファレンス等多機能に支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	道路状況による、声掛けや、ゴミ投げ、排雪、雪投げ、氷割り、花の水やり協力等、小さなことから楽しむ暮らしの支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による月2回の内科往診、家族様やご本人様の希望に応じて、精神科・皮膚科・歯科往診・他院への通院対応も行うなど、家族様の協力を得ながら支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診と、週1回の看護師の健康管理があり、月の中で入居者様の往診が交代で診てもらえ、他の方でも体調が悪い時にはいつでも相談、診察できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他医療機関の受診や入院される際は提携医より医療情報提供書にて入居者様の情報を提供、適切な治療が行われています。入院された場合も病院関係者や御家族から情報を収集し、退院後も適切な支援ができるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの説明と同意の確認を御家族様、主治医、職員と定期的に話す場を作り行いながら、話し合う期間を状態に合わせて短くし、ケアの仕方などの見極めや医療機関の関わり方など都度相談しながら、ターミナルケアを実施させて頂きました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による、心肺蘇生訓練など、勉強会の時間を設け、急変や事故発生時に備えて理解をして、現場に活かせるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所は理解しているが、実際に即対応できる体制が未熟です。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護を基本とし、人格の尊重とプライバシーの保護をケア理念の六つの誓いに照らし合わせながら、職員が意識した上で入居者様主体のケアを意識し、ご本人らしい暮らしや誇りが持てる対応を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念に基づき、ご本人との会話を通じ、ご本人の思いを聞きだし、自己決定ができるように本人主体のケアを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	六つの誓い(理念)に基づき、職員主体とならず、ご本人様主体となるように、自由を基本とし、したいことを優先しながら本人らしく1日を過ごして頂いています。(居室で過ごす、リビングにてテレビ鑑賞、昼寝、花の水やり、入居者様同志の雑談、ご家族様と過ごす、買い物、散歩他など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やひげそりや外出着など必要な部分は職員介入しながら、毎日の身だしなみを意識させて頂いています。		

悠ライフさくら山鼻(3階ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人の好き・嫌いなどの意向を把握し、食事の提供を行っています。また、嚥下状態に合わせて食事形態の変更などの支援も行っています。調理、盛り付け、片付けなども職員と一緒にいき、支援をさせて頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは外部業者へ委託し栄養価を満たした献立を提供し、食事量や水分量はチェック表を利用して把握しています。家族様の意向や摂食状況を勘案しながら栄養補助食品の提供を実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、入床前の口腔ケア、義歯洗浄を行って必要に応じて保管・消毒を行っております。また、訪問歯科の歯科衛生士によるケアを受けている方もおります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意等のご本人様のサインを見ながら、排泄チェック表を使用し、排泄状況と間隔の把握をし、出来る限りトイレで排泄できるような支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の状態に合わせ、毎日の便秘の状況を把握しながら、乳製品や繊維物等食事やおやつなども工夫しながら提供しています。日々の体操や歩くこと意識付など取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の状態に合わせてながら、気分良く入浴できる声掛けや、マンツーマンで話せる場作り、希望した日、時間に入浴できる支援を日々行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度・湿度・照度などを調整して安眠できるような支援を行っており、冬期間においては冷え性な方に湯たんぽなどを使用して快適に眠ることができる支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬に関する情報は職員全員が把握しながら、薬剤師と変更時には確認し、変更後の記録の記載を都度行っています。誤薬予防のためにセット時、提供時に相互確認を行って服薬対応を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理補助、食器拭き、洗濯物たたみ等のできることへの役割を多く作りながら、体操などの日常的なレクリエーションで体を動かし、嗜好品の購入など個別支援や気分転換を図る散歩などの対応を行っています。		

悠ライフさくら山鼻(3階ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けなような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物の同行、季節を感じていただくことができるようなドライブなどを行っています。個別に温泉での入浴や外食、買い物などの対応を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望により手持ち金をお持ちの方もおり、ご自分の希望で買い物をし、お金の出し入れをされており、紛失に注意しながら残金のチェックなどをご本人様と一緒にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の能力を支援しながら、電話で会話をされたり、手紙などの郵便物が届いた際にはお届けさせていただいております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な温度や湿度となるように調整をさせていただき、日中の天気の様子をみながら空間の照明の調整、カーテンによる照度の調整などを行っております。また、空間には入居者様が作られた人形や手芸品、絵画や職員が作成した季節を連想させる設えを実施しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろげる場所を定期的に考えた上で設置するなど、入居者様が気に入った場所でくつろげ、安心できる空間を常に検討して対応しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の昔の写真や家族との写真(思い出の写真)、その他なじみの物を居室内に置き、心地よく過ごすことができるように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を目標にトイレや浴室などに手すりを設置し、ご自身でできることは行い、難しいことは都度検討しながら、支援をしています。		